

## 甲府盆地および富士山周辺域における地下水の地球化学特性と地質構造

## Geochemical and geohistorical investigation of groundwater from the Kofu basin and the foot of Mt. Fuji, central Japan

# 輿水 達司 [1]; 小林 浩 [2]; 内山 高 [3]

# Satoshi Koshimizu[1]; Hiroshi Kobayashi[2]; Takashi Uchiyama[3]

[1] 山梨県環科研・地球科学; [2] 山梨県・衛公研; [3] 山梨県環科研

[1] Yamanashi Inst. Environ. Sci.; [2] none; [3] YIES

周知のように、地下水をはじめとする自然界の多くの水試料に含有される元素につき、微量元素も含めその分析・測定が容易にできるようになってきた。その結果、水試料に含まれる各種の元素濃度の分布に地域性が浮かび上がってきた。このような背景から我々は、地質の発達史を考慮して、甲府盆地および富士山周辺を中心とする南部フォッサマグナ地域の広範な地下水、湧水、河川水中に含まれるバナジウム、リン、ウラン等の元素濃度分布の地域性を論じてきた(輿水ほか, 1998; 小林・輿水, 1999; Koshimizu and Tomura, 2000; 小林・輿水, 2001; 輿水・京谷, 2002; 小林・輿水, 2005 など)。その結果、南部フォッサマグナに分布する岩石種とりわけ火成岩類に含まれる元素濃度の規則性を基に検討したところ、地下水や河川水中の上記元素の起源や人為汚染の程度などを合理的に推定することが可能になった。

さらに、甲府盆地およびその周辺域における地下水中に特徴的に高濃度が認められるヒ素についても、地質学的な形成過程を加味して検討し、高濃度ヒ素が認められる地下水の地域特性につき我々は報告を行った(輿水・小林, 2004)。その後引き続き検討内容も含め報告する。